



どうなっとるのが 教えてちょ～!!



伊藤 敬宏 議員



動画QRコード

問 中学校部活動について

令和2年9月に文部科学省から全国の教育委員会あてに発出された通知には「部活動における教師の負担軽減に加え、部活動の指導等に意欲を有する地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現を目指す」とされています。これは地域の方々のご理解、ご協力なくしては不可能なことだと思えます。

当町として、今後の部活動の在り方、地域との連携、運営方法をお聞かせください。

答

教育長

スポーツ庁では、10月7日に「学校の運動部活動の地域移行を促進するための有識者を集めての会議」の初会合が開催されました。来年7月には提言をまとめるとのこと。協議内容としては、「運動部活動改革の目的・目標」、「地域移行する前の運動部活動の在り方」、「地域への移行の在り方」、「運動部活動の地域での受け皿」、「指導者」、「施設」、「大会」、「会費」、「保険」、「関連諸制度等の見直し」と非常に多岐にわたります。これら国や県の動向を注視しながら、坂祝中学校の部活動加入者が昨年度は7割、今年度後期は6割と減少傾向にあるとはいうものの、過渡期における生徒が不利益を被ることがない

ように、喫緊の課題として学校が果たすべき役割や保護者・地域が果たすべき役割について熟議を重ねていきたいと思えます。坂祝町の体育協会や総合型地域スポーツクラブ（坂祝スポーツクラブ）、スポーツ推進委員会やスポーツ少年団などの関係団体、さらには坂祝のまちづくりに関わるNPO法人も立ち上がったとの力強い情報もお聞きしましたので、多くの皆様のご理解・ご協力を得ながら「地域・スポーツ委員会」が中心となって話し合いを進めていくことを申し上げ、答弁とさせていただきます。



坂祝中学校部活動（女子バレー部）



林 重光 議員



動画QRコード

問

カーボンニュートラル、 脱炭素社会の実現について

坂祝町としての取り組みについて伺います。

答

企画課長

現在まで施策などは決まっておらず、地球温暖化防止対策、町施設との関わり、電力供給事業の新規参入企業への対応など複数の課が関わってくるものとなりますので、協議を行っていく体制づくりから始めていきたいと考えます。

また、二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指す自治体が「ゼロカーボンシティ」を宣言し、様々な取り組みを開始しています。県内では岐阜県と4つの市が宣言を行っているので、取組事例などを参考にしていきたいと考えます。

問

町諸施設に対する取り組みについて伺います。

答

総務課長

公共施設の照明LED化を進めています。平成23年度に中央公民館事務室・図書室・応接室・ロビー。令和2年度にサンライフさかほぎ。令和3年度に役場庁舎を現在発注しており、2月までに施工しLED化を図ります。太陽光発電は、平成25年度に小学校屋上に20KWを設置しています。今後、各施設の総合管理計画による長寿命化計画に合わせて、LED化も進めていきたいと思えます。そのほかの取り組みについては、クールビズ・ウォームビズによる冷暖房の温度調整やペーパーレス化やリサイクルなどを進めることが、カーボンニュートラル・脱炭素社会につながるものと考えています。

問

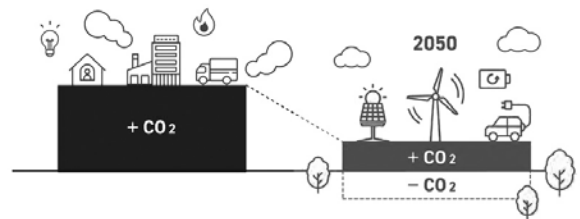
町民と共に取り組む施策について伺います。

答

企画課長

現時点では何の施策も無い状態です。町としての体制を整えた後に、町民の方に協力していただく事項など決定していくこととなります。

また、町と官学連携協定を結んでいる中日本自動車短期大学が、カーボンニュートラル事業への取り組みとして、電気自動車への積極的な関与を開始しました。急速充電器の普及などの面において、町との連携の打診がありましたので、町の考えを伝え検討を行っていただいているところです。このように町内の企業などでカーボンニュートラルに関する事業展開がある場合には、町民の方にも有効な事業かどうかを判断したうえで、連携を行っていく場合もあるかと考えます。



カーボンニュートラルとは

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。



和田 雅彦 議員



動画QRコード

問

引きこもりからの脱出支援と今後の対策について

引きこもりの問題は自己責任とする意見もありますが、社会福祉的な視点から見ると、早期に対策を講じなければならない社会全体の問題であると考えます。この点を踏まえ、現在の町の取り組みについて伺います。

答

福祉課長

地域の高齢者、障がいのある方、ひとり親家庭、支援を要する方やその家族が住み慣れた地域で孤立することなく暮らせるように社会福祉協議会にコミュニティソーシャルワーク事業として業務委託しています。

問

若年層の対策についてはどうなっているでしょうか。

答

福祉課長

若年層の対策については、教育委員会の教育支援会議に社協も参加し、早い段階から情報を共有し必要な支援を行っています。関係を切らすことなく就労に向けた基礎能力、社会参加意識と就労意欲の向上を促し自立に向けた生活ができるよう支援を行っています。

問

引きこもりの方の把握についてはどうなっているでしょうか。

答

福祉課長

若年層の方は、学校や教育委員会と常に情報共有がなされています。それよりも年齢が上の世代の方については、地域包括支援センターや保健センター、ケアマネージャー、民生委員や地域でのコミュニティなどあらゆるところからの情報を頼りとしています。

問

相談しやすい窓口づくりについてはどのように行っていくのか伺います。

答

福祉課長

福祉課窓口や保健センターにおいて相談業務や支援を行っていますが、引きこもりに限らず福祉全般に関する困りごとが多いのが現状です。地域包括支援センターを役場庁舎から気軽に相談や情報提供をしていたり、使いやすいサンライフさかほぎに移転配置しており、情報が集まる拠点として環境整備し、相談支援体制の充実を図っていきたく考えます。



河村 利道 議員



動画QRコード

問 木曾川の治水対策について

町南部を流れる一級河川木曾川の治水対策についてお聞きします。

- ①今年8月豪雨の際に一色地区内の堤防の一部法面が崩れました。原因及び対策は？
- ②一色大橋は、毎年のように中河原を増水した濁流が流れることにより、橋脚下がえぐられる等の影響があると思われます。一色大橋の点検状況は？
- ③8月豪雨の木曾川増水時に他地区の住民が一色大橋や堤防上に増水の様子を車で見学に來られ、避難する方にとっては迷惑であったとお聞きしていますが、何か対策は？
- ④近年、国において樹木伐採・竹林伐採により、木曾川の流下能力の向上と景観の保持がされていますが、樹木伐採・竹林伐採の今後の計画について伺います。

答

産業建設課長

- ①木曾川上流河川事務所には、被災後すぐにシート張り工法による応急復旧をしていただきました。2度目であることもあり町からは改良復旧を要望しています。
- ②一色大橋の点検については、平成30年度には「健全」の診断結果であり、次回は令和5年度を予定しています。一方、中河原を通水した後の目視点検はもちろん、日常点検としてドローンも使用し点検確認を行っています。
- ③増水時の見物者への対策については、堤防全てを立入禁止にすることは容易ではありません。個人のモラルによるものが大きいと感じますが、注意喚起を行っていきたく。
- ④樹木伐採については、段階的に実施していくとの返答をいただいております。樹木などを除去することで河川の流下能力は向上しますが、流速が上がることにより堤防川表へのダメージも懸念されるところですので、因果関係も調査の上、引き続きの実施をお願いしているところです。

最後に、木曾川の治水事業の大きなものとして新丸山ダムの本体工事が、今年度いよいよ着工します。下流域の自治体、住民の安心安全な生活の確保のため、着実な整備を強く要望していきます。



令和3年8月の増水で崩れた堤防
(酒倉一色地内)



新井谷 正代 議員



動画QRコード

問

一般廃棄物処理、 ごみ減量化について

ごみ減量化は町民の協力なしにはできません。環境のため、ごみ袋購入費を値上げしないためにも、ごみ減量化対策として町民との連携をどのように考えているかお聞きします。

答

水道環境課長

令和2年度実績で坂祝町の家庭系可燃ごみ排出量が加茂郡内で1番目に多い結果となりました。ごみ減量化に向けて令和8年度を目途に紙製容器包装及びプラスチック製容器包装類を資源とした分別収集を実施の方向で検討します。また現在、補助金を交付している電気式生ごみ処理機・コンポスト容器・枝葉粉碎機の利用促進及び集団回収の促進に努めたいと考えています。

問

数年前にプラスチック製容器包装類は資源として回収していたが経費が見合わずやめてしまった経緯があるが、良策は見つかったのか伺います。

答

水道環境課長

平成26年から28年までプラスチックの分別収集と資源化に取り組みましたが、材質の多様化やよごれ付着等の問題があり、現在中止しています。アンケートやごみの組成調査の結果を踏まえ、資源化可能なごみについては、コストのかからない実施方法やリサイクル組織と連携した回収方法などについて模索し検討していきます。

提案

ごみ減量化に 子どもたちの力を!

町民皆様のごみ減量化に対する意識をもう少し高めてもらうために、今年度からSDGsに取り組んでいる坂祝小学校児童の力を貸してもらうことを提案します。また、子どもたちの将来のためにも取り組んだ成果を実感してもらうことが大切だと考えるがいかがでしょうか。

答

水道環境課長

子どもたちの力を借りるということは効果があると考えるため、学校や関係機関と連携して新たな方法を前向きに検討していきます。

問

利用促進に補助金を出すだけではなく、例えば電気式生ごみ処理機で作った肥料をごみ袋と交換するなど家庭にプラスになる取り組みを考えてはどうか?

答

水道環境課長

町が集めたものをどう処理するのかということもあり、全体を精査した上で出来ることであれば進めていきたい。また、町のイベントなどで生ごみ処理機等のPRをしていければと考えてます。

坂祝町ごみ分別アプリをご利用ください!



iPhone用



Android用



松田 賢治 議員



動画QRコード

問

幼児教育スタートプランの推進に伴う幼児教育の質の向上及び安全な保育環境の保障を求める。

文部科学省は「幼児教育スタートプランの具体化を強力に進める」とした。中央教育審議会で議論が進む「幼保小架け橋プログラム」、内閣府の「子ども・子育て支援新制度の着実な実施」、厚生労働省の「保育の受け皿整備・保育人材の確保」を踏まえ、幼児教育の質の向上及び保育所等の感染対策の経費補助、安全な保育環境の保障を求める。

答

こども課長

町では平成25年3月に「アプローチプログラム・スタートアップカリキュラム」を策定し、「小1プロブレム」（※小学校にあがったばかりの子ども達の落ち着かなさが長く続いてしまう状態）を解消し、滑らかに園から小学校での学習、生活に移行できることをねらいとし、町内3園、小学校で推進しています。資質や専門性の向上のために外部講師を招いた園内研修やつくろこ教室では各園や小学校教師が参加する「発達支援地域療育勉強会」を開催しています。

今後は、国において新たな施策の検討がされていきますので、その動向に注視していきます。

次に感染症対策については、各園が目指す安全な保育環境を提供できるよう、国の政策に注視し、交付金等を最大限に活用しながら進めていきます。

問

SNSによる匿名のいじめを許さない教育と啓蒙を求める。

SNSの利用率が高まったことで、ネットいじめが増えました。顕在化しにくく陰湿なものも多くあります。覆面を被るいじめっ子をそのままにしておくとは許されません。悩んでいるから相談したのであり、子どもの心をよりしっかり掴むための手立てが必要です。子ども達の異変に気付くため、小中学校の全児童生徒に配備した学習用タブレット端末にいじめ防止相談ツール子どもの命を守る「マモレポ」「心の天気」の導入を求める。

答

教育課長

いじめ対策に関する子どもたちの受け皿は可能な限り多いほうが良いと考える中、SNSを使ったいじめについては、現行の「坂祝町いじめ防止基本方針」に項目を追加するなどして対応します。いじめは絶対に許されない行為であることの理解を深めることに努めています。

「マモレポ」「心の天気」のようないじめ対策アプリの活用は、非常に有効であると考えますが、費用面も含め、よく研究、検討したい。

問

授業におけるデジタル教科書のあり方や効果的な活用を求める。

紙の教科書は、児童生徒に各教科の基礎的・基本的な学習内容を習得させるため、長年にわたって学校教育の場を支えてきた。一方、デジタル教科書は、便利だが問の立て方や情報や資料の収集・整理の仕方など探求的な学習の低下の事例がある。知識・技能などを修得するには、能動的な活動を通じて習得する方が確実に身に付く。「紙かデジタルかという2項対立」に陥らず授業における効果的な活用を求める。

答

教育長

デジタル教科書は、より良い授業を構築し、児童生徒の学びの充実を図る新たなツールとして期待されるものです。デジタル教科書の使用

は、あくまでも教育の質を高めるためであり、その使用自体を目的としたり、紙かデジタルかという「2項対立」の議論に陥ったりしないように留意していきたいと思います。教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面などにより、どちらの良さも適切に組み合わせていきます。



小島 利成 議員



動画QRコード

問 坂祝町独自のかわまちづくりについて

昨年度末「坂祝町かわまちづくり基本計画」が策定され、久々に明るい新事業が始まると、心躍らされた。現在の進捗状況と当面の目標について尋ねる。

答 産業建設課長

現在は、国への登録申請の準備を行っている段階で、令和5年度の申請に向けて熟慮しています。

国との協議では将来的なビジョンや、個別具体的な整備計画、資金計画が定まっていなかったことが指摘されました。また名勝木曾川の規制の影響を考慮する必要が生じたこともあります。

今後は、昨年整備した酒倉地内の芝生広場のイベント開催や散策路整備を実施し、木曾川並びに河川空間の魅力を発信していく予定です。

次に、当面の目標ですが基本計画の一部見直しを進め、社会実験的なモデル事業を実施し、効果の検証等を含め方向性を見定めていきます。そして、身の丈に合った事業展開をしていく考えです。



かわまちづくりで整備した芝生広場
(酒倉地内)

問 周辺市町との連携について

昨年11月設立の「木曾川中流域かわまちづくり協議会」や、今年7月設立の「木曾川中流域観光振興協議会」が組織され、木曾川を介した観光振興やまちづくり等の取り組みが急務となっている。両協議会について、町として今後どのように周辺市町と連携されるか問う。

答 産業建設課長

「かわまちづくり協議会」については、まだ具体的な事業は行われていません。今後連携を進めるため、作業部会を設置することを申し合わせています。

答 企画課長

「観光振興協議会」については、県の補助金枠が創設されたため、基本計画にある芝生広場内の散策路整備に活用し、観光事業などにも活用できる場所づくりを行っています。

今後、コンセプト（概念）の決定や各市町が実施している事業とのつながり方などを協議する予定です。つながりが強い美濃加茂市・可見市と連携した事業展開（川下りの実施）なども模索しながら、坂祝町のPRにつながるような事業を目指していくものです。

再質問 廃墟化した「空き家」を撤去できないか

木曾川景観を損ねている各務原市境にある空き家について、早急に対応してほしい。

答 町長

12月下旬に持ち主の方が初めて来町されるので、直接話し合いをする予定です。